



ときわ会の四季 秋号

(No.74)



特集

- 写真：仏ヶ浦 …… P 1
- 『糖尿病の合併症を予防し、日常生活の質向上を』 糖尿病外来～後編 内科 楠美 尚子 …… P 3
- 病棟探索 ～季節の飾りつけ～ …… P 2
- 予防医学で元気になる③ 体質と気質：自分と人の違いを理解する(3) 外科 峯岸 晶子 …… P 4
- インフルエンザ予防接種のお知らせ …… P 2



医療法人ときわ会の理念 ときわ（永遠）の愛

「ときわの愛」とは職員一人一人がそして法人全体が、利用者の求める心の安らぎと身体の健やかさを心から手伝えることです。

理念実践のための3S（信頼・職員・施設）

1 信頼の確立

- 1.1 各職員が利用者第一主義を徹底します。
- 1.2 自治体・関係施設・組織との連携を推進します。
- 1.3 地域住民の保健から緩和医療までの包括ケア体制の向上を目指します。

2 職員の資質の向上

- 2.1 職員各人が心身の健康管理を徹底します。
- 2.2 情報開示（説明・同意・応需・安全・守秘・非差別など）を推進します。
- 2.3 医療関連職員として職務遂行能力の向上を目指します。

3 施設設備の高度充実化

- 3.1 職員各人が経営基盤の安定化を徹底します。
- 3.2 法人施設相互の連携を推進します。
- 3.3 施設特性を発揮する設備の向上を目指します。

患者様の「権利」と「ご協力」のお願い

ときわ会病院は安全な医療と快適な療養生活をお送り頂くために、患者様に以下の権利をお約束します。またご病気の一日も早い回復のために以下のご協力もよろしくお願い申し上げます。

権利

- 1 病気や健康に対して十分な情報・説明・教育を受ける。
- 2 十分に説明された検査や治療方法を、自分で選び決める。
- 3 自分が納得する計画的チーム医療・看護・介護を公平に受ける。
- 4 自己の尊厳とプライバシーが守られる。
- 5 上記の権利を得られない場合は、病院などに苦情を申し立てる。

ご協力(義務)のお願い

- 1 病気を治すのは患者様ご自身の責任であり、ご自身の心と体の力です。病院の仕事は患者様自身が病気を治すことへのお手伝いであることをご理解ください。
- 2 一日でも早い心身のご回復を目指し、患者様ご自身も病院職員と共にチーム医療・看護・介護に参加する義務があることをご理解ください。

病棟探索 ～季節の飾りつけ～

コロナ禍のため病棟内でのイベントが自粛される状況において、患者様に少しでも季節を感じてもらえるように各病棟のスタッフが工夫を凝らしています。

患者様への面会制限は継続中ではありますが、病棟の雰囲気を感じ取っていただけますと幸いです。



今年度のインフルエンザ予防接種について

当院ではインフルエンザ予防接種を令和4年10月3日（月）より開始いたします。インフルエンザ予防接種の予約は不要です。

今年度は感染予防対策として、**インフルエンザ予防接種のみでの来院の方への専用時間**がございます。曜日・時間は下記のとおりとなります。

曜日・時間	月～金	午後 3 時	～ 午後 4 時 30 分
	土	午前 8 時 50 分	～ 午前 11 時 45 分

なお、**当院かかりつけの方は、定期受診時に接種**していただくことができます。

インフルエンザ予防接種のお知らせ

当院ではインフルエンザ予防接種を、**令和4年10月3日（月）**より開始いたします。詳細は下記のとおりとなります。

記

接種料金 1回 3,500円（税込）

曜日	開始時刻
月～金	午後 3 時～午後 4 時 30 分
土	午前 8 時 50 分～午前 11 時 45 分

なお、**当院かかりつけの方は、定期受診時に接種**していただくことができます。

ときわ会病院 病院長

内科 楠美 尚子

糖尿病は眼や腎臓、神経、心臓や脳血管などの合併症のほか、がんや歯周病などさまざまな病気ともかかわるといわれています。

厚生労働省の2019年「国民健康・栄養調査」によると、20歳以上の「糖尿病が強く疑われる人」の割合は、男性19.7%、女性10.8%でした。年齢が高い層でその割合が高く、特に60歳以上の男性では4人に1人ほどの割合でした。

糖尿病は膵臓のβ細胞から分泌されるインスリンの作用不足による慢性の高血糖状態を主徴とする病気です。初期には自覚症状がほとんどありません。糖尿病と診断された時点で、β細胞のはたらきは正常の約50%低下していて、無治療の場合年間約4%の割合で低下していくといわれています。糖尿病の前段階の時から、動脈硬化を促進してしまうといわれています。従って早期発見・早期治療する必要があり、定期的な健康診断が重要になってきます。会社や自治体からの案内をよく確認し、年1回は健診を受けましょう。そして異常があれば受診しましょう。特に、働きざかりの方ほど受診できていない現状があります。さらに、糖尿病と診断されたら受診を継続することが大切です。

日本人糖尿病患者の約95%を占める2型糖尿病の場合は、遺伝因子に、過食(とくに高脂肪食)、運動不足、肥満、ストレスなどの環境因子および加齢が加わり発症します。予防のために生活習慣に気を配りましょう。家系に糖尿病の人がいる場合は特に、家族一緒に予防に取り組むことが望ましいと思います。

糖尿病の治療は食事療法を基本とし、運動療法、薬物療法があります。糖尿病薬は経口薬も注射薬も多くの種類があり、患者様の病態や背景により、選択していきます。また、糖尿病は合併症の多い病気ですので、初診時やその後も定期的に、血糖値のみならず合併症の検索を行っていきます。眼科や歯科受診もおすすめしています。当院では、糖尿病専門医や糖尿病療養指導士らがチームを組み、患者様の療養指導を行い、フットケアや透析予防指導等も行っております。

また、当院通院のインスリン療法中の患者様では、14日間持続自己血糖測定器が利用可能になっており、血糖の状況を把握し治療に反映させ、多くの方で効果を実感していただいております。

糖尿病の合併症の発症を抑制して、糖尿病のない人と変わらない寿命と日常生活の質(QOL)の実現を目指すことが目標です。



外科 峯岸 晶子

すこし間が空いてしまいました。体質と気質、最後は土と水の質（カバ）です。

土と水の質は、強固で重く、冷たい質を持ちます。カバの質を多く持つ人の身体的特徴は、骨格が大きくしっかりしており、体格が大きく、筋肉や脂肪も多く持ちます。気質に現れる特徴は、何事もゆっくりで穏やか、風の質の多い人がせっかちなのは対照的です。カバ（土、水）の多い子供はゆっくりマイペースで、食べるのも着替えるのも遅かったりでまわりがイライラすることがあるくらいです。しかし、ゆっくりですが集中してきちんと最後まで物事をやりとげます。また、なにか事件が起こると、慌てず怒らず騒がず、泰然として周りを安心させてくれるのもこのタイプです。

このタイプはひとたび怒ると、怒鳴ったり自己主張する火の質とは対照的に黙り込んでしまうことが多く、またカバが増えすぎてバランスが乱れると頑なになって人の意見を聞かなくなります。カバの質が多い人は少し食べても体重が増えます。甘いものや冷たいものをとりすぎないようにし、体力があるのでしっかり体を動かしてバランスをとることが大切です。またカバの質は冬の間が増え、春にアレルギーのきっかけになったりします。

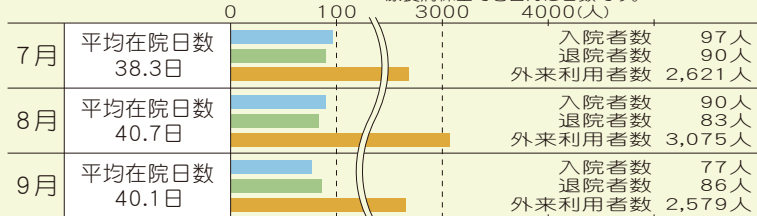
シリーズの初めに書いたように、これら風、火、土、水の質はすべての人が持っているものですが、その多寡によって現れる気質体質が変わってきます。体が小さく細くても気質がカバの場合もあります。ご自分で当てはまる場所があったら参考にしてみてくださいね。



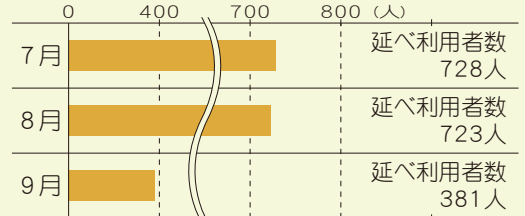
医療法人ときわ会病院 各施設の利用状況

ときわ会病院 利用者数

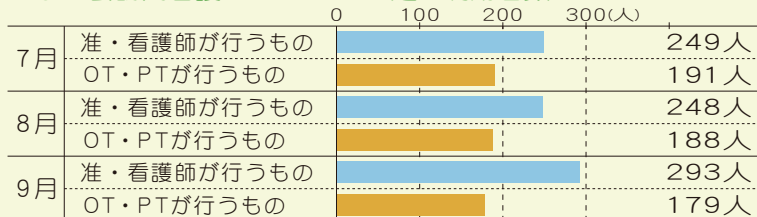
※平均在院日数は一般・回復期リハビリ病棟・療養病棟全てを含んだ日数です。



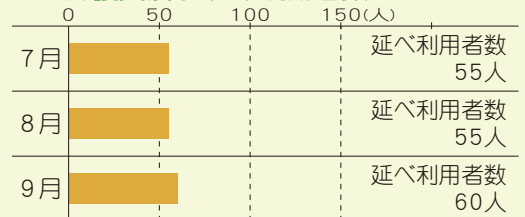
通所リハビリテーション 利用者数



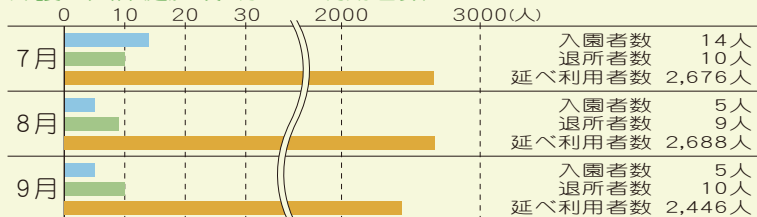
ときわ会訪問看護ステーション 延べ利用者数



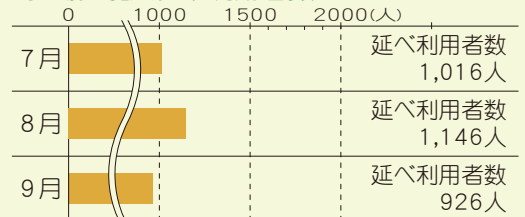
居宅介護支援事業所 利用者数



介護老人保健施設 明生園 利用者数



町立藤崎診療所 利用者数



編集後記



先日岩木山で、キャディさんから殻の直径が4cmもある立派なカタツムリを譲り受け、ゴルフ場から飼育箱を下げて帰ってきました。一緒に暮らしてみると、流れている時間がとてもゆっくりです。また、世話をしているうちにひそやかなコミュニケーションも生まれるものです。目下、冬眠の準備を思案中です。皆様も来たるべき冬に向かい準備万端でお過ごしくださいね。

峯岸 晶子